

一人孟宗の名にちなんだといわれる。

マダケ モウソウと同じく中国原産。町内における繁殖傾向は孟宗竹よりは少ない。用途は竹梯子・竿・茶杓・茶せん・物差し・団扇・傘の骨その他一般竹細工に用う。

ハチク マダケに似ている。クレタケ、カラタケの別名がある。

ゴサンチク 下部の節間が極端に短くて膨れている。形がおもしろいので杖や釣り竿に喜ばれる。繁茂は多くない。

クロチク 茎の色が黒紫色だからこう呼ばれる。観賞用に庭に植えたり、茶室など趣味的な建築に用いられる。これも分布が少ない。

メダケ 俗にオナゴダケである。シノダケも同種、竹の皮は年を経ても落ちない。分布は山中至る所や川岸で護岸の役目を果たしている。

オダケ 俗にオトコダケである。マダケの小型と考えられる。

クマザサ 高さ三〇センチぐらいの小さい笹、葉が割合に大きく土地により密生している場合が多い。

メゴザサ 茎が小さく高さ三〇〜四〇センチ、曲げて折れない強さがある。かごやめじなどに使われる。最近めつたに見当たらない。

四 き の こ 類

シイタケ マツタケとともに日本の代表的食用きのこである。クマガイ・ナラ・シイ・カシなど広葉樹の枯れ幹・切り株に春秋二季発生する。人工栽培も容易で三〇〇年前より行われていた。当町でもかなりの生産高である。

マツタケ 主として赤松林の根元に発生するが最近は少なくなった。

生きた根を必要とするので人工栽培は難しいとされている。

シメジ 秋ごろ低山の雑木林に単立するかあるいは群生する。センボンシメジはこの同種である。また人工栽培のガンタケもこの一種。

アカナバ 秋の野原をかきわけると赤く小さいなばが生えていたが、現在は植林のためそうした野原という環境がほとんど無いので、このきのこを知らない人が多いだろう。

ハツタケ これも今は全く見当たらないし、店頭でも見ることは無い。大方絶滅したのだろう。

アマタケ 毒性はないが美味ではないので一般に食用に供しないようである。欧州ではこれを好んで食べるとか。

ナメコ 秋季にブナの枯れ幹や切り株に群生する。人工栽培物が瓶詰などで売られている。ビタミンBに富みナメコ汁はうまい。エノキダケ、ナメスギダケなどは一般にナメコと総称する。おが屑を材料とした

人工栽培工場が崎山中瀬にあった。

キクラゲ 広葉樹の腐りかけた枯れ木によく群生する。人間の耳のように柔らかさと形まで似ているので「木耳」の字をあてる。乾燥すると収縮し、軟骨質で黒色となる。人工栽培なし。

サルノコシカケ 梅などの樹木の幹に生える半円形腰掛け状で硬質のきのこ。食用になるマイタケや薬用になるメシマコブや観賞用になるマンネンタケなど、いろいろな種類もある。

テングダケ 各地の林に単生かあるいは群生する大型の毒きのこである。ベニテングダケも同種だが、毒性はやや低い。

イッポンシメジ 普通のシメジに似ているが、裏側のヒダが赤くなるので判別できる。柄になる部分もよく裂けるし食用となるかと勘違いをす

るので注意を要する。

ツキヨタケ 毒きのこ。食用のムキタケと間違えないよう注意のこと。

五 しだ類

ウラジロ シダ類の代表格、山中に自生し群生している場合が多い。

新年にユズリ葉とともに飾り物に用いる。

ワラビ 山菜として人間と親しみ深い存在。山野の林縁や伐採跡、山焼き跡など日当たりのよい斜面に多い。保存できるので重宝。

ゼンマイ 山野に自生する多年草。若芽の時は握り拳のような形で白い綿毛に包まれている。これも保存でき山菜料理に欠かせないもの。

シノブ 深山の岩肌や樹皮上に着生する。根茎を輪状またはかご状に組んで「シノブ玉」としたり「ツリシノブ」を觀賞する。

ノキシノブ 樹皮、岩肌、古い軒屋根に見られる。葉の裏面に孢子囊群が並んでいる。同種にヒメノキシノブ・ミヤマノキシノブ・ビロードシダなどがあり、いずれも觀賞用。

フウラン 樹木の幹に着生する常緑の多年草。伊良原、藤ノ宮や帆柱の神社、大村の永井氏宅などで見受ける。

シシラン 岩壁や大木の樹幹に垂れ下がる。シダ類として変わった種類。

キジノオシダ 山道の斜面でもよく見かける。きちんと並んだ葉の形が、キジノオに似ている。

イノモトソウ 井戸など水気が多い所に生える。岩のくぼみや崖などにもよく見る。

リョウメンシダ 葉の表と裏の区別がないのでこう呼ばれる。水気のある谷などに生え常緑性である。

シシガシラ 山野によく見る。葉は地面を這っている。

オオカゲマ 長さ一拵もある大型のシダで、乾いた山の斜面や杉林の下に力強く生育している。

マメヅタ 山中の岩上や大木の幹に、豆のような丸い小さな葉をびっしりつけているが、よく見るとつる状に長く這っているこの名がある。ウラボシ科のシダに類する。

六 蘚 苔 類

ミスゴケ 吸水・保水性が著しいので、植え木や苗木などの根に巻いて保水用に用いる。一般に苔類は地表を覆って保水力を高めるので水源涵養林での苔の役目は大きいとされている。

スギゴケ 蘚苔類中の蘚類に属し、その代表種と言える。隠湿な地上に群生する。葉が密生し杉枝状になる。庭園や植木鉢に植え込み觀賞用とする。ウマスギゴケ、オオスギゴケなどの同種がある。

ジャゴケ 苔類でゼニゴケ目に属する。平たく地表や岩上につく。表面に蛇のうろこ型の紋がある。

ヒカゲノカズラ 山地の斜面に自生する常緑のつる性多年草。長く地上を這って二拵にもなる。「天狗の腰巻」の別名がある。